【資料1】

角田市第6次長期総合計画（案）

（2022−2031）

【概要版】

角田市

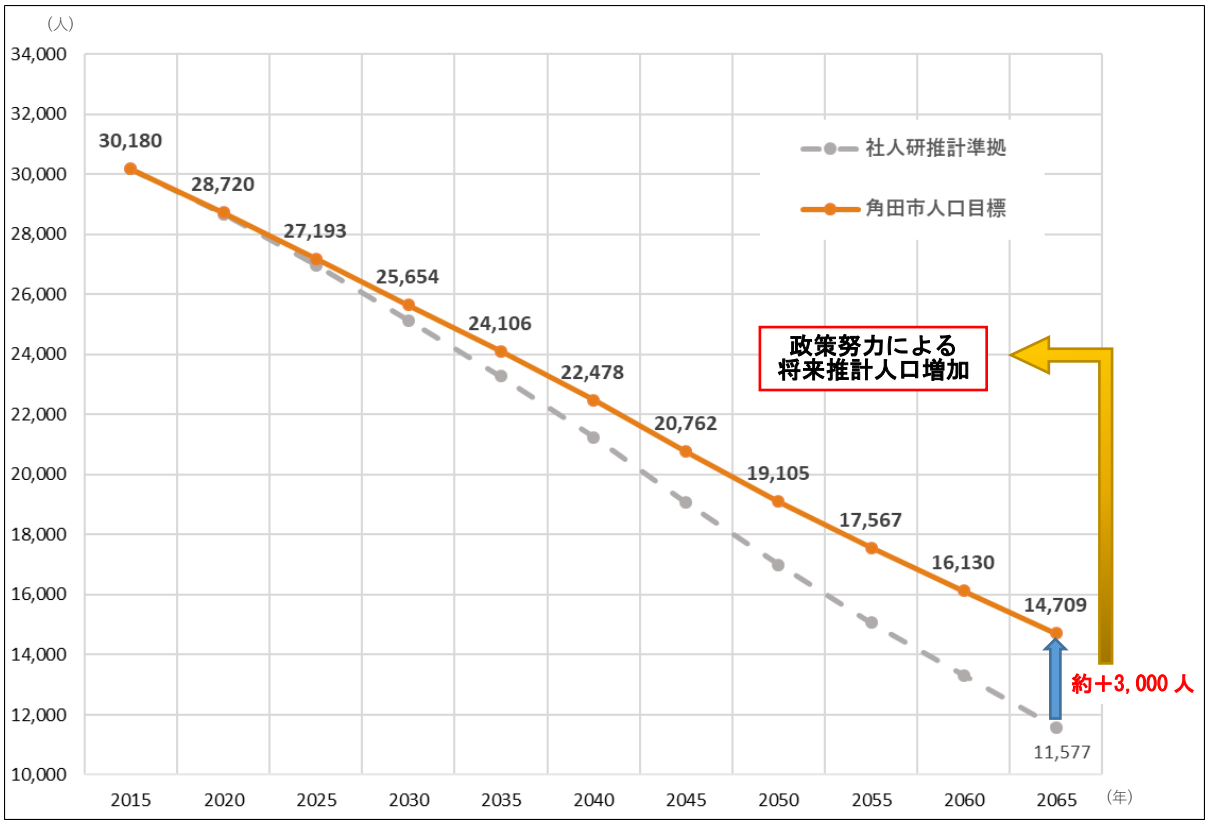
人口の将来展望（人口ビジョン）

将来人口の目標値

■本市の総人口は、平成7（1995）年以降は少子高齢化の進展により減少傾向が続いており、平成 27（2015）年の人口は 30,180 人となり、直近ピークの平成2（1990）年（35,431 人）と比較すると 85.2%の水準まで減少しており、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）等の推計によれば、本市の人口は、50年後の令和47（2065）年には、11,577 人（平成 27（2015）年比 38.4%）にまで減少するものと推計されています。

■本市の合計特殊出生率が宮城県よりも低位な現状を踏まえると、宮城県が設定する人口ビジョンの目標値である人口置換水準 2.07 又は純移動率ゼロを目指すことは困難であることから、本市が目指すべき合計特殊出生率（国民希望出生率：1.8）及び純移動率（人口流出による人口減少の半減）に基づき集計した、図表1を本市の目指すべき将来人口の目標値とし、令和47（2065）年時点で社人研推計値よりも 3,000 人程度多い人口1万5千人の確保を目指します。

【図表1　角田市の将来推計人口目標 】



まちづくりの主要課題

課題 1．市民が主役の地域資源を活用したまちづくり

〇まちづくりに積極的な人材育成

〇市民力を発揮できる環境づくり　〇廃校、既存施設の利活用

〇スポーツを通したまちづくり　〇多様な主体との連携強化

課題 2．安全・安心なまちづくり・気候変動への対応

〇過去の被災経験を教訓とした防災・減災対策の強化

〇新たな感染症に対する予防と対策の強化

〇地球温暖化・気候変動対策の推進

課題 3．持続可能な地域医療体制の構築

〇産科、小児科の誘致（周産期医療の確立）

〇人口減少に対応した地域包括ケアシステム・地域共生社会の確立

課題 4．子育てしやすいまちを目指して

〇子どもの遊び場の整備　〇働く場所の確保

〇学力、教育環境の向上　〇男女共同参画社会の定着

〇多様な主体との連携強化

課題 5．公共交通システムの存続・利便性向上

〇阿武隈急行線の存続、利便性向上

〇デマンド型タクシー、周遊バス等の地域交通の再検討

〇学校統廃合によるスクールバス運行、利活用

課題 6．魅力的な産業の振興と地域経済の活性化

〇企業誘致活動の推進　〇農業振興（ビジョンの明確化）

〇道の駅、Kスポの活用　〇多様な主体との連携強化

課題 7．市民生活の基盤となる安定した行財政経営の推進

〇経常収支比率の改善　〇稼ぐ市役所の推進

〇公共施設の適正管理

まちづくりの基本理念

■「まち」は、市民（ここでは、企業や通勤・通学者など多様な主体を含む広義の市民を指します。）の暮らしの基盤であり、その基盤をより良いものとする活動が、まちづくりであると言えます。即ち、まちづくりの主役は、市民であり、多様な主体が連携・協力して推進されるものです。

■本市は、昭和53年10月に市民憲章を制定しています。市民憲章は、恒久的なまちづくりの目標であり、この市民憲章に掲げる理念を基盤として、市民が主役のまちづくりを推進し、角田らしい魅力をもった個性豊かなまちづくりを進めます。

■また、本市の現状分析結果を踏まえ、今の本市にとっての主要課題を整理した上で、これからのまちづくりの基本理念を次のとおり定めます。

1.将来を見据え人を育み、活かすまちづくり【市民力】	●本市を支える市民及びその市民の活動は、まちづくりの根幹をなす財産です。 ●まちづくりは、市民の幸せを最大の目的として営まれるものであり、市民がまちづくりの主役となり、「市民力」を発揮できる環境づくりを推進するとともに、行政は市民と共に考え、汗をかき、角田市を高め合える環境づくりを推進します。
2.ともに生き、活かし合うまちづくり【地域共生】	●人口減少が進む現代において、市民だけでなく、団体や企業など、多様な主体が連携して、支え合い、助け合える環境を築くことは、本市の持続可能なまちづくりの基礎となります。 ●多様な日常生活上の支援体制の連携・充実を図り、地域の支え合いを公的に支え、共助を公助することを通して、市民の生活と地域参加を支援していきます。
3.地域資源を活かすまちづくり【地域資源フル活用】	●本市に息づく歴史、自然、景観、文化・スポーツや、企業、地域産業、既存の施設などの豊富な地域資源は、誇れる財産です。 ●将来にわたって、自然を守り、歴史・文化を継承するとともに、未だにその魅力を活かしきれていない地域資源を最大限に活用し、角田にあるものをフル活用する「オール角田」の取組みを推進します。

角田市の都市像

■今後、人口減少が加速し、2065 年には約 15,000 人まで人口が半減していきます。

■角田市が、時間の経過とともに縮小していくなかで、これからの10年間で何をすべきでしょうか。たとえ縮小しても、市民が安心して、いきいきと、誇らしく暮らせるまちを目指すことが重要です。

■そのような将来を迎えるために、これからの10年間で重要になるのは、市民の力・民間の活力・地域資源を活かしたまちづくりを行うことです。

■角田市をよりよい場所にするために自分自身がかかわっているという、当事者意識に基づく自負心を持つ市民が増えることで、行政だけでは困難な課題の解決も可能になり、市民と行政が角田市を高め合える環境を整えることが、人口減少という隘路を切り開く試金石となります。

■10年後の角田市のあるべき姿のキャッチフレーズとして、角田市の都市像を以下のとおり設定します。

市民力咲き誇る。角田市✿

～安心して、いきいきと、誇らしく暮らせるまち～

■角田市らしい魅力にあふれた個性豊かなまちをつくりあげるためには、地域の課題について主体的に考え取り組む市民の行動力、即ち「市民力」が何よりも大切なことです。

■市民力には、若い世代のフレッシュな市民力、円熟味のある力強い市民力、大きくまとまり推進力のあふれる市民力、個人や少人数による個性豊かな市民力など、多様性があります。

■多くの市民の活躍により、まちづくりが展開されているイメージを「咲き誇る。」という言葉に込めました。また、このことにより、すべての市民が角田に住んで良かったと思えるまちにしたいという思いを副題に表しました。

■「市民の皆様に、主体的にまちづくりに参画していただき、将来の角田市をみんなで創り上げたい。」そういう願いをこの都市像に込めています。

重点プロジェクトと分野別施策

重点プロジェクトの推進

■重点プロジェクトとは、基本構想で定める「まちづくりの基本理念」を踏まえ、10年後のあるべき姿として設定する「都市像」の実現に向けて取り組むべき各種施策を網羅した基本計画を、有機的に連携させながら、重点的かつ優先的に推進するための取組みを位置づけたものです。

市民憲章	まちづくりの基本理念	都市像
角田市民の恒久的なまちづくりの目標	将来を見据え人を育み、活かすまちづくり【市民力】 ともに生き、活かし合うまちづくり【地域共生】 地域資源を活かすまちづくり【地域資源フル活用】	～安心して、いきいきと、誇らしく暮らせるまち～ 市民力咲き誇る。角田市✿

分野別施策

安全・安心

保健・医療・福祉

産業振興・就労

まちづくり

教育・文化・スポーツ

都市基盤・生活環境

行財政経営

重点プロジェクト

【施策の方向性】

人口が減少し、規模が縮小していくなかでも、本市における市民の暮らしや営みが、いきいきと誇らしいものであるためには、市民の工夫に満ちた向上心あふれる営みが重要になります。市民がもつ潜在能力を最大限に活かし、その市民力を発揮できる場が数多く存在することで、まちが活力にあふれ、市民はもちろん、本市を訪れる人々にとっても、角田市が魅力的なまちになるよう、人材育成や活躍できる環境の整備を重視し、取り組んでいきます。

【具体的な施策】

1.自ら進んで活動する市民の育成・支援
2.地域の担い手不足対策・地域の担い手の多様化
3.女性の活躍推進　　4.将来を担う若い世代の育成

【施策の方向性】

これからのまちづくりにおいては、人口が減少していくなかで、老年人口が増加し、2040 年には生産年齢人口を上回ることが予想されており、高齢者だけでなく、若年層や働く世代など全ての世代において、人口減少による影響が懸念されるため、広い意味での共生や共助の精神がより重要になります。多様な日常生活上の支援体制の連携・充実を図り、地域の支え合いを公的に支え、共助を公助することを通して、市民の生活と地域参加を支援していきます。

【具体的な施策】

1.地域共生社会・地域包括ケアシステムの確立
2.地域活動の活性化・つながりの強化
3.子育て支援の充実　　4.持続可能な医療体制の推進

【施策の方向性】

本市には、魅力的な地域資源がたくさんあり、それらの魅力を引き出し、連携・協力することで、さらなる賑わいの創出が図られるとともに、地域経済の好循環を生み出します。本市の産業を守り育てるとともに、既存施設の計画的な利活用を図り、さらに、人、企業、施設の連携を推進することで、本市の新たな魅力を引き出していきます。

【具体的な施策】

1.農業の振興と担い手の確保　　2.地域資源を活用した創業支援と企業誘致
3.公共交通システムの存続と多様な輸送資源の活用
4.道の駅を活用した地域経済の活性化　　5.既存施設の有効活用
6.スポーツによるまちづくり　　7.災害等に備えた安全・安心なまちづくり